43



Caregiving
介護







今後ますます需要が高まる「介護」の仕事

少子高齢化が急速に進み介護需要が増大する中、介護従事者の必要性が高まっています。また、介護現場では、国家資格である「介護福祉士」をはじめとしてさまざまな介護従事者が働いており、日々、利用者の自立を支援するための安全・安心なケアの質の向上に取り組んでいます。競技大会として実施することで、介護従事者個人の技能の専門性が適正に評価され、互いに競い合うことで、目標を持ちながら、やりがいを持って働き続けることができる環境が整えられ、次代を担う介護従事者の育成にも繋がります。競技では「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」の 3 課題について介護行為を行います。



＜2025年大会 食事介助＞



＜2025年大会 入浴介助＞



＜2025年大会 排泄介助＞

＊前回大会はエキシビションでの実施だったため、金メダリストはいません

競技職種と生活との関わり

介護従事者は、超高齢化が進む日本社会において、高齢者や障害のある方々が、安心して自立した生活を送るために不可欠な存在です。要介護者の生活支援だけでなく、社会的な孤立を防いだりする重要な役割を担っています。また、需要が高く、やりがいを感じることができる仕事でもあり、専門知識と技術を習得することで、質の高いケアを提供し、社会に大きく貢献しています。

その人らしい生活を支え、笑顔をもたらす価値ある仕事

「人を笑顔にしたい」、「誰かの役に立ちたい」そうした優しい気持ちで介護職をめざされ、多くの知識や技術を身につけながら専門資格を取得してきた先輩方が、周りに大勢いらっしゃいます。そして、介護の現場にはご利用者の笑顔と感謝があふれています。高齢者や障害のある方々から必要とされている価値ある仕事です。

久留 善武 主査　一般社団法人シルバーサービス振興会

